

令和7年度 学校法人駒場けやき学園 駒場幼稚園
学校評価（自己評価） 報告書

○昨年度の学校評価の結果を受け、さらなる教育の充実を目指して、下記の5項目で自己評価を行った。

★駒場幼稚園の教育目標

- ・自ら感じ、考え、表現することができる子ども
- ・心も身体もたくましい子ども
- ・友だちとかかわる中で、喜びを感じ、互いを生かしあうことができる子ども

★駒場幼稚園で大切にしていること

- ・遊びを中心とした園生活の中で、よく感じ、考え、表現し、生きる喜びを味わうこと
- ・心と体を動かし、物事を創り出す過程を十分に体験すること
- ・自然が持つ教育力を重んじ、園内外の環境を有効に生かして豊かな経験を積み重ねること
- ・仲間と十分に触れ合うことを通して、楽しさや葛藤を体験し、人とかわる力を身につけること
- ・教師が連携を取り合い、一人ひとりの幼児の育ちを見つめ、教育すること
- ・幼稚園と家庭とが協力し合い、幼児の安定した育ちと充実した環境の実現を目指すこと

<評価項目>

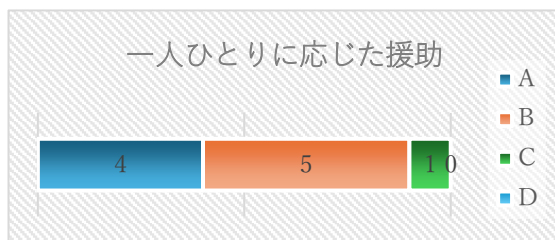
1. 幼児一人ひとりの育ちや課題に応じた援助ができるよう、日々の振り返りから環境の構成や援助の方法を工夫する。
2. 園の教育についての理解が深まるよう、様々な媒体を使って、日々の幼児の姿から、一人ひとりが経験している内容や育ちについて発信する。
3. 幼児が探求を深められるよう、すくわくのテーマを意識して日々の保育に取り入れ、探求する姿から、気付いたことを話し合ったり、記録にまとめたりして学び合う。
4. 他園の預かり保育から学んだことを共有し、本園でできることを考え、積極的に預かり保育（もり組）に生かす。
5. ワークライフバランスを考え、互いに協力して働きやすい職場を目指す。

<評価項目 1>

○幼児一人ひとりの育ちや課題に応じた援助ができるよう、日々の振り返りから環境の構成や援助の方法を工夫する。

<評価指標>

- ・日々の丁寧な振り返りから、幼児一人ひとりの育ちや課題に応じた援助ができたか。



- A：十分に達成している
- B：達成している
- C：取り組んでいるが、成果が十分でない
- D：取り組みが不十分で、成果につながっていない

<成果>

○日々の保育後の振り返りを通して、子どもたち一人ひとりの様子や課題、その時々を思いを丁寧に受けとめ、共有し、翌日の援助に生かすことができた。一人ひとりの興味や発達に応じて環境やかかわり方を工夫し、それぞれが安心して自分らしく過ごせるよう援助した。教職員が共通理解をはかりながら、みんなで一人ひとりの育ちを考えて援助してきたことで、子ども同士の関係性や主体性を育むことができた。

<課題の改善に向けて>

○日々の保育では環境の構成や援助の在り方を考えながらかかわってきたが、教職員の数が多いことによる情報共有の難しさや、十分に振り返りの時間がもてないなどの課題もあった。今後は、子どもたち一人ひとりの課題に対して見通しをもった援助や継続的なかかわりを深め、教職員間の共有方法や記録の仕方を工夫して、より適切な援助につなげたい。

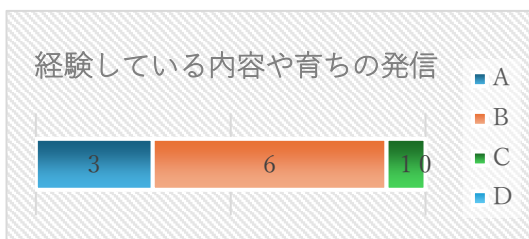
○教職員一人ひとりが意見を出し合える雰囲気づくりを心掛けたが、十分にできたか課題が残る。一人ひとりの資質向上につなげるために、これまで行っていた“保育の話”をする時間をもちたい。

<評価項目 2>

○園の教育についての理解が深まるよう、様々な媒体を使って、日々の幼児の姿から、一人ひとりが経験している内容や育ちについて発信する。

<評価指標>

- ・園の教育内容と成果について、内外（在園の保護者・地域・未就園児の保護者等）に発信できたか。



A：十分に達成している
B：達成している
C：取り組んでいるが、成果が十分でない
D：取り組みが不十分で、成果につながっていない

<成果>

○Instagramや園だより、掲示物、保護者会などを通して、日々の保育や子どもたちの成長を積極的に発信した。特に、駒場幼稚園が大切にしている自由な遊びや自然豊かな環境の中で育つ子どもの姿、友達とのかかわり、行事での経験などを具体的に伝えることを心がけた。また、保護者との日々の会話や連絡帳でのやり取りに加え、Instagram用の写真撮影や文章作成にも取り組み、子どもたちの成長を共に喜び合える関係づくりに努めた。Instagramやポスターで園外に向けた発信を継続したことで、フォロワーも徐々に増えている。

<課題の改善に向けて>

○クラスの様子をクラスだよりやSNSで発信しているが、より分かりやすい伝え方や発信頻度に課題がある。降園時にもっと保護者と話をしたり、保護者会で写真を活用して説明をしたり、園内の掲示板で他学年にも活動内容を知らせたりするなど、より伝わりやすい工夫が必要である。今後は、様々な発信方法を学び、簡潔で効果的な情報発信ができるようにしたい。

<評価項目 3>

○幼児が探求を深められるよう、「とうきょうすくわくプログラム」(すくわく)のテーマを意識して日々の保育に取り入れ、探求する姿から、気付いたことを話し合ったり、記録にまとめたりして学び合う。

<評価指標>

- ・すくわくの4つのテーマを意識し、取り組みを言語化して園内で共有できたか。



A：十分に達成している
B：達成している
C：取り組んでいるが、成果が十分でない
D：取り組みが不十分で、成果につなっていない

<成果>

○日ごろから、子どもたちの「やりたい」「やってみたい」という気持ちを大切に保育をしているため、日々の保育内容が自然と「すくわく」のテーマにつながった。食の活動（お米づくりや野菜スープ、すもも・夏みかん・きんかんなど）をはじめ、様々な遊びの中で、子どもたちの気づきや探究心を大切に、学びが深まるようかかわることを意識してきた。全園児が参加した音楽会後には、特に音楽への興味が高まり、楽器作りや演奏会ごっこを楽しむ姿が見られた。教職員で子どもの様子を共有しながら、さらに「楽しい!」「こんなこともやってみたい!」と思える環境構成を工夫したことから、手作りの楽器で演奏会を楽しむなどの展開も見られた。

<課題の改善に向けて>

○子どもが興味をもてるようかかわりや環境を工夫してきた一方で、全教職員でじっくり語り合い、他学年の取り組みへの理解を深めることが足りなかった。日々の保育がテーマにつながってはいたが、テーマを意識した記録や振り返りを継続的に行うことが課題である。さらに、子どもの気づきをより深められるよう、一人ひとりへのかかわり方や環境の構成を工夫していきたい。

<評価項目 4>

○他園の預かり保育から学んだことを共有し、本園でできることを考え、積極的に預かり保育（もり組）に生かす。

<評価指標>

- ・研修の一環として、預かり保育について他園の取り組みに学び、もり組の保育の充実を図れたか。



A：十分に達成している
B：達成している
C：取り組んでいるが、成果が十分でない
D：取り組みが不十分で、成果につなっていない

<成果>

○一人一園、夏季休業中に他園の預かり保育を見学し、各園の工夫や環境の構成、運営方法について学び、本園で取り入れられる内容がないか、報告会で検討・共有することができた。利用人数の増加に伴い、教員配置や安全面、保育環境の整備などが課題となったが、学んできたことを参考に、日々相談しながら対応を考えることができた。

<課題の改善に向けて>

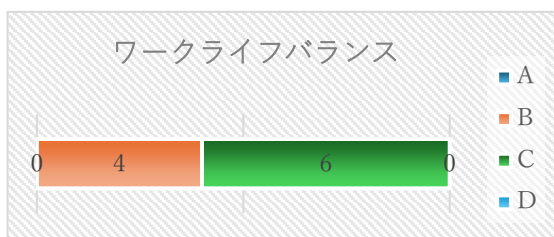
○他園の預かり保育から学んだ内容を検討する機会をもてたが、条件が異なるため、本園での実践につなげることが難しく、十分な活用には至っていない。特に、教職員の配置や日々の業務との兼ね合いが課題となっている。また、利用人数の増加に対して遊び場の確保が難しくなっており、本園に合った預かり保育の運営方法について全教職員でより具体的に検討し、改善していく必要がある。

<評価項目 5>

○ワークライフバランスを考え、互いに協力して働きやすい職場を目指す。

<評価指標>

- ・教職員一人ひとりが、自身のワークライフバランスを考えた働き方を心掛け、互いに助け合い、働きやすい職場環境にできたか。



- A：十分に達成している
- B：達成している
- C：取り組んでいるが、成果が十分でない
- D：取り組みが不十分で、成果につなげていない

<成果>

○体調不良や家庭の事情による早退・休みに対しても、互いに補い合いながら柔軟に対応し、協力して保育を行うことができた。日頃からコミュニケーションや意見交換を大切にし、特に同学年の教職員間で声を掛け合いながら、個々の状況を考慮して働きやすい職場づくりに努めることができた。

<課題の改善に向けて>

○行事前には残業が増え、保育内容を深めようとすると、家庭との両立やワークライフバランスをとることが難しい状況があった。業務の優先順位や効率化、役割分担、会議の進め方なども改善の余地がある。一人ひとりが健康管理や情報共有の仕方を意識し、他の教職員と連携しながら日々の業務を効率的に進め、負担軽減を図っていく必要がある。

令和7年度 学校法人駒場けやき学園 駒場幼稚園
学校評価（関係者評価） 報告書

○令和8年3月28日14時～第2回評議員会にて、
「令和7年度 学校法人駒場けやき学園 駒場幼稚園 学校評価（自己評価）報告書」について、
下記の意見をいただいた。

- ・運営面では令和8年度から保護者による学校評価の導入を進めること、行事前に増えがちな常勤職員の残業の改善等、勤務時間の管理が課題である。
- ・現場は日々丁寧に運営されている一方で、業務の負担が大きく、教職員の健康や休息、研修や学びの時間を確保する必要がある。
- ・子どもや保護者に安心感を与える丁寧な保育や保護者と教職員との信頼関係が、駒場幼稚園の魅力であるが、園児が集まっていないことが心配である。今後は、子育て相談の拡充や広報・園児募集の強化（ポスター掲示など）に協力したい。
- ・「何を残し何を変えるのか」を明確に整理し、理念を言語化することが重要である。特に「遊び」を中心とした本園の強みを明確にし、今後は園のよさを積極的に発信し、関係者全体で改善を進めながら、駒場幼稚園を発展させていきたい。